

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 吉 田 淳 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 1801 号 |
| 学位授与の日付 | 平成10年3月31日 |
| 学位授与の要件 | 医学研究科内科系内科学（一）専攻 （学位規則第4条第1項該当） |
| 学位論文題目 | Different expression of Tn and sialyl-Tn antigens between normal and diseased human gastric epithelial cells （正常および病的ヒト胃粘膜上皮細胞におけるTn抗原と シアリルTn抗原の発現の違い） |
| 論文審査委員 | 教授 原田、実根 教授 中山 睿一 教授 槇野 博史 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胃粘膜上皮における Tn 抗原と、シアリル Tn 抗原の発現について免疫組織染色で調べた。

正常の胃粘膜上皮は、胃底腺では核上部に Tn 抗原を、幽門腺では細胞質内に Tn 抗原を発現していたが、シアリル Tn 抗原は発現していなかった。

腸上皮化生と腸型腺腫は、杯細胞の小胞内にシアリル Tn 抗原を、吸収上皮細胞の管腔側細胞表面に Tn 抗原を発現していた。胃型腺腫は Tn 抗原は発現していたが、シアリル Tn 抗原は発現していなかった。

腸型胃癌はび漫型胃癌に比べ、高頻度に Tn 抗原とシアリル Tn 抗原を発現していた。5 症例で Tn 抗原、シアリル Tn 抗原、T 関連抗原の発現が認められなかった。このうち 4 例がび漫型胃癌であった。

結論として 1) Tn 抗原は正常胃粘膜上皮の抗原である、2) 胃粘膜上皮の小腸上皮への脱分化と関連して、Tn 抗原のシアリル化が起こる、3) 胃癌では Tn 抗原とシアリル Tn 抗原の発現はともに低下していると考えた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、癌特異的と考えられる糖鎖抗原、T 抗原の前駆抗原 Tn とそのシアリル化を正常および病的胃粘膜上皮について免疫組織学的に検討し、1) 正常胃粘膜上皮は Tn 抗原を発現しているがシアリル Tn 抗原は発現しない、2) 腸上皮化生や腺腫では Tn 抗原のシアリル化が認められる、3) 腸型胃癌はびまん型胃癌に比べ高頻度に Tn 抗原とシアリル Tn 抗原を発現する、という成績を得た。この成績は、癌関連糖鎖抗原の正常および病的胃粘膜における発現について重要な知見であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。